

## 茨城県における梅毒患者の実態調査に関する研究について

○梅澤美穂, 梅川千晏, 吉田友行, 石井崇司<sup>1</sup>, 永田紀子<sup>1</sup>現:古河保健所

## 要旨

近年、県内の梅毒患者が急増しているが、その実態は不明な点が多い。本研究では、梅毒患者の詳細な感染経路等を明らかにし、効果的な予防啓発と検査受診の促進に寄与することを目的とし、梅毒患者についてアンケート調査を実施した。

平成30年10月から令和2年3月までに87例のアンケート調査票の解析を行った。性別は、男性58例、女性29例であり、年齢の中央値は、男性43.0歳、女性26.0歳であった。多くは異性間性的接触で感染しており、性交渉の相手との関係性は、男性異性間は「風俗店」、男性同性間は「インターネット・SNS等で知り合ったその場限りの相手」、女性は「特定のパートナー」が最も多かった。また、直近の性交渉の地域は、異性間性的接触患者の86.4%が茨城県内のみであった。

本県の男性梅毒患者の多くは県内の風俗等の利用により梅毒に感染し、その男性パートナーから女性が感染している例が多いことが示唆された。

キーワード：梅毒、性感染症、患者発生届、アンケート調査

## 1. はじめに

梅毒は、梅毒トレポネーマを病原体とする感染症で、主に性的接触により感染する。感染すると、感染部の病変から全身症状に移行し、無治療のまま数年から数十年が経過すると、ゴム腫や神経症状等重篤な症状を呈する場合がある。また、妊娠中に感染していると、胎児に感染し先天梅毒を引き起こす可能性がある<sup>1)</sup>。

本邦の梅毒患者は近年急激に増加しており<sup>2)</sup>、本県においても、平成26年までは年間20例程度であった報告数が、平成30年には121例と急増している(図1)。また、先天梅毒が平成28年及び平成30年に1例ずつ報告されている。梅毒は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)五類全数把握対象疾患であり、患者を診断した医師により全例届出が行われるが、患者発生届から得られる情報は限られている

ことから、詳細な感染経路及び患者急増の背景等は明らかになっていない。そこで、県内の梅毒患者の感染経路等を詳細に把握することにより、梅毒等の性感染症の検査受診の促進及び効果的な予防啓発に寄与することを目的として本調査を実施したので報告する。

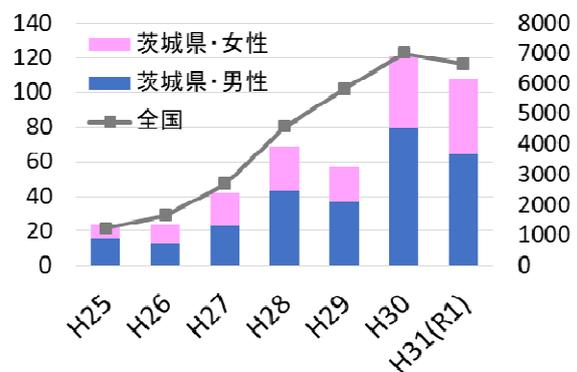


図1 全国・茨城県の梅毒患者数推移

## 2. 調査方法

### 2-1. 方法

感染症法により届出があった梅毒患者について、届出を行った医師へ「患者の基本情報」、「過去1年間の性交渉状況」、「性感染症の罹患歴」及び「医療機関受診の理由」等をアンケート調査し、アンケート及び患者発生届の内容を用いて解析を行った。なお、本研究以前に届出のあった梅毒患者についても、医師の協力が得られた場合は対象とした。

本研究は、茨城県疫学研究合同倫理審査委員会の承認を得て実施した。

### 2-2. 対象

平成30年10月から令和2年3月までに収集したアンケート調査87例を対象とした。なお、患者発生届は、平成30年4月から令和2年3月までに届出のあった224例を対象とした。

## 3. 結果

### 1) 患者の基本情報

アンケート調査87例の性別の内訳は、男性58例、女性29例であった。年齢は、男性は40歳代、30歳代、20歳代及び50歳代の順に多く、女性は20歳代、30歳代、40歳代の順に多かった(図2)。また、年齢の平均値は、男性42.1歳、女性29.7歳、中央値は、男性43.0歳、女性26.0歳であった。

患者の居住地について、県内を県北、県央、県南、県西、鹿行の5つの地域に区分したところ、県央地域が36例(41.4%)と最も多く、次いで県南地域が24例(27.6%)、県北地域が17例(19.5%)であり、患者の分布に大きな偏りはみられなかった。

職業は、男女ともに会社員が最も多かった。また、女性のうち、風俗等を職業としている症例が5例(17.2%)あった(図3)。

婚姻状況は、既婚が18例(20.7%)、未婚が49例(56.3%)、不明が20例(23.0%)であった。

梅毒診断時の病型は、男性は早期顕症梅毒Ⅰ期が20例(34.5%)、早期顕症梅毒Ⅱ期が20例(34.5%)、晩期顕症梅毒が4例(6.9%)、無症状病原体保有者が14例(24.1%)であり、女性は早期顕症梅毒Ⅰ期が7例(24.1%)、早期顕症梅毒Ⅱ期が11例(37.9%)、先天梅毒Ⅰ例(3.4%)、無症状病原体保有者が10例(34.5%)であった(図4)。

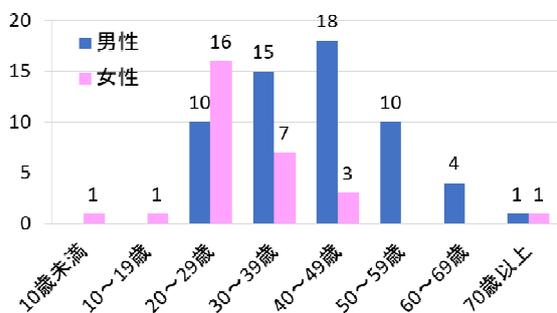


図2 性別年齢別患者数



図3 患者の職業(複数回答)

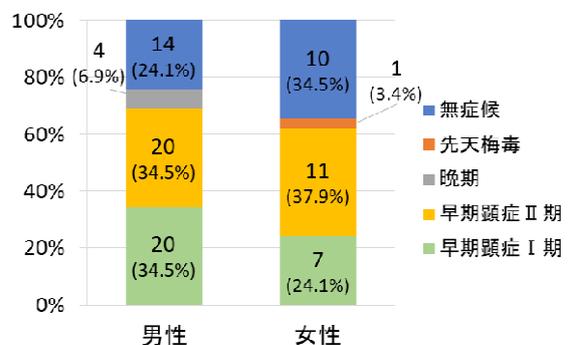


図4 梅毒診断時の病型

2) 過去1年間の性交渉状況

87例のうち、過去1年間に性交渉があった人が77例(88.5%)、なかった人が2例(2.3%)、不明が8例(9.2%)であった。

性交渉があった77例の性別は、男性が52例、女性が25例であった。また、男性のうち異性間性的接触(以下、「男性異性間」という。)が46例(88.5%)、同性間性的接触(以下、「男性同性間」という。)が6例(11.5%)であり、女性は全員が異性間性的接触であった。

相手との関係性については、男性異性間は「風俗店」が35例(76.1%)と最も多く、次いで「特定のパートナー」が11例(23.9%)であった。男性同性間は「インターネット・SNS等で知り合ったその場限りの相手」が4例(66.7%)と最も多かった。また、女性は「特定のパートナー」が18例(72.0%)と最も多く、性風俗産業従事者または直近に性風俗産業に従事歴がある人以外の大部分がパートナーからの感染であった(図5)。

性交渉の地域については、地域が判明している64例について解析したところ、男性異性間38例中32例(84.2%)、女性21例中19例(90.5%)が茨城県内のみであった。男性同性間は5例中4例(80.0%)が茨城県外であった。

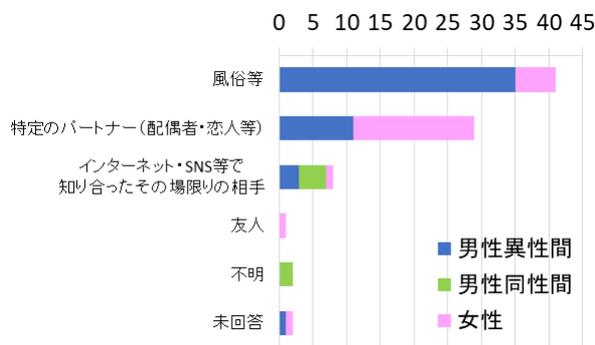


図5 性的接触相手との関係 (複数回答)

3) 性感染症の罹患歴

87例中20例(23.0%)で性感染症の罹患歴

があった。20例のうち、男性異性間が8例、男性同性間が4例、女性が8例であった。罹患した疾患は、男性異性間及び女性では性器クラミジア、男性同性間はAIDS(HIV)が最も多かった。また、梅毒の罹患歴があり今回が再感染とみられる例は3例(3.4%)であり、多くは梅毒初感染例であった(図6)。

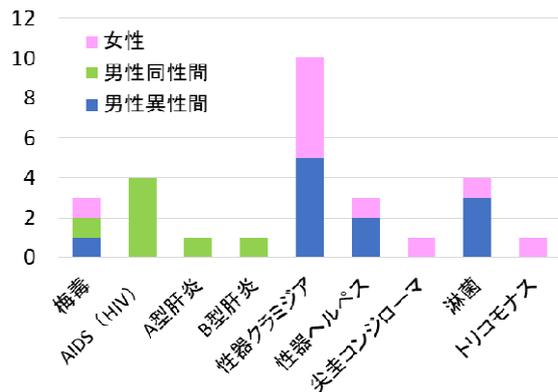


図6 罹患歴のある性感染症 (複数回答)

4) 医療機関受診の理由

無症状病原体保有者について、医療機関受診の理由を、アンケート調査票及び患者発生届の備考欄等から解析した。届出時の病型は、アンケート調査87例中24例(27.6%)、患者発生届224例中84例(37.5%)が無症状病原体保有者であり、うち44例で受診理由の記載があった。理由の内訳で最も多かったのは「術前検査など他の疾患の治療の過程で発見された」であり、男性ではほかに「健診・人間ドック等」、女性では「妊婦健診」等が多かった。本人に心当たりのある、「心配なことがあった(風俗店の利用など)」、「職業上定期的に検査を実施している」等の理由は少数であった(表1)。

5) 医療機関の内訳

患者発生届より、梅毒を診断した医療機関を診療科別に分類した。まず、病院と診療所に分類したところ、男性は病院が54.3%、診療所が

45.7%であり、女性は病院が 45.2%、診療所が 53.6%、その他が 1.2%であった。さらに、それぞれ診療科別に分類したところ、男性は、病院では泌尿器科、皮膚科、感染症科がそれぞれ 2 割ほど、診療所では 62.5%が泌尿器科であった。女性は、病院及び診療所の両方で産婦人科が最も多く、特に診療所では 82.2%を占めた(図 7)。

#### 4. まとめ

本調査より、本県の男性梅毒患者の多くは風俗等の利用により梅毒に感染し、その男性パートナーから女性が感染している例が多いことが示唆された。また、性的接触の地域は県内が大部分を占めることから、県内の中で感染伝播が起こっていると考えられる。これらのことから、感染の中心と推定される県内の風俗関係者等への啓発が重要であると考えられる。また、女性患者は 20～30 歳代に多く、先天梅毒発生防止のためにも若年層の女性への啓発は重要な課題であるが、そのためには男性パートナーへの啓発も同時に行うことが必要であるため、性別を問わず若年層全体をターゲットとした

啓発の強化が重要である。

本県の梅毒患者の届出時の類型は無症状病原体保有者が約 4 割を占めており、その多くは何らかのきっかけで偶然発見されたとみられる。また、約 4 人に 1 人が性感染症の罹患歴があった。梅毒を含む多くの性感染症は、感染しても症状が出ないことが多く、気付かぬうちに自身やパートナー、さらには胎児へ影響を与える危険性がある<sup>2)</sup>。また、性感染症に罹患していると他の性感染症への罹患リスクも高くなる<sup>2)</sup>。これらのことから、性感染症の知識を普及啓発するとともに、検査受診を促すことが重要である。

今後も梅毒の発生状況を注視していくとともに、これらの予防啓発を強化していきたい。

#### 5. 参考文献

- 1) 国立感染症研究所ホームページ、梅毒とは <https://www.niid.go.jp/niid/ja/diseases/ha/syphilis/392-encyclopedia/465-syphilis-info.html>
- 2) 性感染症に関する特定感染症予防指針(平成三十年一月十八日厚生労働省告示第十号)

表 1 無症状病原体保有者の医療機関受診の理由(複数回答)

医療機関受診の理由	男性	女性
他の疾患の治療の過程で発見された(術前検査等)	9	7
健診・人間ドック等	10	1
妊婦健診		5
パートナーが梅毒と診断された	2	2
職業上定期的に検査を実施している		3
心配なことがあった(風俗店の利用等)	3	
検査キットで陽性が出たため		2
飛び込み出産		1
献血	1	

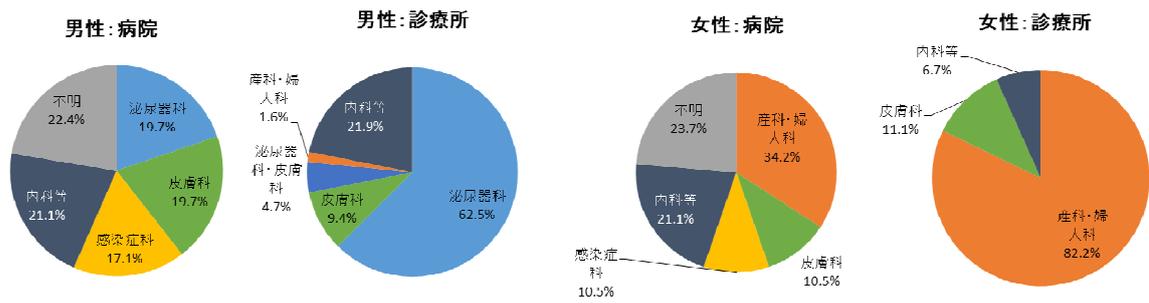


図6 梅毒を診断した医療機関の診療科内訳